

庄原市議会議長選挙立候補 所信表明

今般の統一地方選挙の投票率 280 の市議選 44.26% 250 の町村議選 55.4% 投票率は過去最低でした。63 の市長選挙 47.73%(0.23P up) 東京 10 の区長選 45.78% 21 の区議会議員選挙 44.51%は前回は上回りましたが、50%を切る水準となっています。

さて、庄原市議会議員選挙に目を向けてみると、合併時、平成 17 年 4 月の投票率は 86.5%、平成 21 年は 83.77%、平成 25 年は 78.78%、平成 29 年は 76.62%、令和 3 年は 72.28%と 16 年間で約 14.2 P 下がっています。今回の統一地方選挙の投票率に比べると高い数値とはなっていますが、確実に下がってきています。つまり、投票所に足を運ぶ人が減っていることとなります。政治が身近に感じられない、政治に興味がないという有権者が増えているとも言えます。議会は、議員は、何をしているのか住民の殆どは分からないのではないのでしょうか。中には、市長が決めたことを議会が議決しているだけだと思っている住民も相当におられるのではないのでしょうか。しかし、二元代表制だから執行機関と議会は車の両輪として機能しなければならないということを言われる住民も相当数いらっしゃるのも事実ですが、**裏を返せば機能していないと思われるのです。**

これらは議会の責任だと私は思っています。議会としての情報発信が足りなさ過ぎる。議員としての情報発信が足りない。つまり、広報広聴が不足しているといえるのではないのでしょうか。議会が終わって直ぐに発行できない議会だよりで良いのでしょうか？ 議会傍聴が少ないのはどうしてか協議する必要があるのではないのでしょうか？ 議会基本条例も制定から殆ど見直しもされていません。市民と語る会も、もっと簡単に開催できる仕組みに変更し、開催回数も増やしたい。議会のホームページをもっと頻繁に更新して来訪者を増やす努力をする必要もあります。更に、双方向の SNS 活用の研究も始めたいと思います。

そして議員間討議の充実です。各常任委員会で積極的な議員間討議を行うことで各委員会の活性化が期待できます。そのためには民意を反映する市議会の特色を生かし、充実した調査研究を行い、その内容について議論をし、市長等に対して積極的に政策提案を行うものとします。

思いはもっとあるのですが、「できない」を「できる」にしていきたいと思います。